

# 竹早だより

平成28年度2月号  
平成29年2月13日  
東京都立竹早高等学校  
文京区小石川4-2-1  
電話03(3811)6961

## 「民泊型」修学旅行を初めて実施

校長 高田 純一

1月17日（火）～20日（金）第2学年の修学旅行を実施しました。今回の旅行の最大の特徴は、本校初めての「民泊型」であることです。目的地は、沖縄県本部半島の北西に位置する伊江島です。伊江島における「民泊」は平成15年に開始され、今年で15年目を迎えています。まさに民泊の草分け的な存在であり、受入態勢も万全でした。しかしながら、生徒たちにとっては初めての経験であり、不安や緊張感をもって民泊に臨んだ人が多かったようです。では、民泊を終えた生徒たちの感想を見てみましょう。

「島の方々の温かさに触れることができうれしかった」「城山（ぐすくやま）からの360度のパノラマが素晴らしかった」「ソーキそば、ゴーヤーチャンプルー、中身汁などの沖縄料理がものすごくおいしかった」と感動・感謝を伝えるものばかりでした。

「家族を連れてまた行きたい」という声も多く、思い出に残る貴重な体験となりました。

初日の平和学習、2日目の沖縄美ら海水族館、最終日の首里城・国際通り見学という従来型のポイントもしっかり押さえられており、バランスの良い修学旅行となりました。生徒の皆さんはルールや時間をしっかり守り、立派に4日間を過ごしました。



## 69期生の前途に幸多かれ！

### 巻き込んで卒業証書はや古び 福永 耕二

受け取ったばかりの卒業証書をクルクルと巻いて筒に入れようとした時、早くも紙にしわが寄り、古びたものになってしまいます。それと同じで、卒業した瞬間、これまでの日々は過去の思い出となっていきます。その思い出も筒の中に封印し、新しい世界に向かって歩み出そうとする卒業生の決意を表現した句だと思えます。

3年生の皆さん、いよいよ卒業の時が近づいてきました。長いようで、過ぎてみればあっという間の3年間でしたね。皆さんの脳裏には、どんな情景が去来していますか。大学受験はまだまだこれからですが、卒業後には実家を離れ、一人暮らしをする皆さんも多いと思います。ここまで育ててくださった保護者の方々への感謝の気持ちを忘れず未来への意欲を燃やしてほしいと思います。

1・2年生の皆さん、皆さんは卒業式のもう一方の主役です。厳粛な気持ちと態度で卒業式に出席し、卒業生の門出を祝福しましょう。

### 竹早高校 伝統の雛人形

竹早高校には、大正時代に作られた七段飾りの雛人形があり、毎年玄関付近に飾られています。美術人形師 鳳雲齋 玉舟（市原長太郎）の作と伝えられており、大変精緻に作られたものです。玉舟の作品は早稲田大学坪内博士記念演劇博物館（通称エンパク）にも収蔵されているそうです。

東京府立第二高等女学校を前身とする竹早高校らしい作品として、ご来校者の目を楽しませるとともに、受験生（高校受験生も大学受験生も）の合格を暖かい笑顔で見守ってくれています。

これからも、竹早高校の長い伝統を大切にしていきたいと思います。



## 2月・3月の主な行事予定

### 〈2月〉

- 17（金）帰国入試
- 20（月）進路講演会①②
- 24（金）都立一般入試
- 27（月）採点日



### 〈3月〉

- 3（金）卒業式予行
- 4（土）卒業式
- 7（火）学年末考査始
- 10（金）学年末考査終・避難訓練
- 13（月）模擬試験②始
- 14（火）模擬試験②終
- 20（月）春分の日
- 21（火）メダリスト特別講演会
- 24（金）修了式
- 26（日）春季休業日始